

第1回：2017年12月

第2回：2018年1月

2017年12月

Jリーグの現状分析と観客動員数増加への改善案

経営学部 経営学科 堀田ゼミ
B4R1160 桑名貴志

【卒業論文概要】

近年、日本のサッカー人気は高まってきている。メディア等の進歩に伴い、スタジアムに足を運ばずに国内外の試合を見ることができるようになった。私の周りにもサッカーが好きな友人が多い。しかし、ほとんどが海外のサッカーもしくは日本代表を好んでいて、Jリーグが好きという人は少ないと感じる。

本論文の目的は、Jリーグ観客動員数の現状を分析したうえで、動員数を増加させるための改善案を提案することである。

まず、Jリーグの発足時からの観客動員数の変化、スタジアムの収容率の比較、海外リーグとの比較をし、Jリーグの現状を分析した。その分析をもとに、Jリーグ内のクラブで観客動員数が最も多い浦和レッズと収容率が一番高い川崎フロンターレの取り組みをもとに改善案を提案した。

まず、1試合当たりの観客動員数について、国ごとのリーグを比較するとJリーグは全218リーグ中13位という結果だった。これは良い結果のように思えるかもしれないが発展途上国やアマチュアのリーグを含んでいて日本のサッカー人気を高めるにはまだ満足のいく順位とは言えない。また、スタジアムの収容率もJリーグ平均で1試合当たり約50%にとどまっており、欧州の強豪国と呼ばれているドイツなどの90%と比べたら低い水準となっている。しかし、その中でも浦和レッズは毎年動員数を増やし続けており、川崎フロンターレは1試合当たりの収容率80%以上を記録している。この2クラブに共通していることとして、観客を飽きさせないような攻撃的なサッカーをしている。この両クラブは過去3年間にわたって1シーズンあたりの総得点数が60点を超えており、これは1試合当たり約2得点をとっていることが明らかになった。以上のことから観客動員数を増やすには観客を飽きさせない攻撃的なサッカーを展開することがよいという結論になった。